

高齢者を狙う特殊詐欺の手口

■オレオレ詐欺

息子や孫になりすました犯人から電話があり、仕事に関するトラブルなどを口実に金品を要求する

■預貯金詐欺

自治体職員などと名乗り、払い戻しがあるからキャッシュカードを確認したい。または取り替える必要があるなどを口実にキャッシュカードをだまし取る

■キャッシュカード詐欺

キャッシュカードが不正に利用されている、預金を保護する手続きをするなど嘘の手続きを口実に、キャッシュカードをすり替えるなどして盗み取る

■還付金詐欺

税金などの還付に必要な手続きを装って被害者にATMを操作させ、犯人側の口座にお金を振り込ませる

市メール配信サービスに登録を

災害や犯罪などの緊急情報をメール配信サービスでお知らせしています。

防災、防犯、市の行事などを登録されたメールアドレスに随時配信。パソコン、携帯電話、どちらでも登録可能です。
登録用URL: <https://mail.cous.jp/tomecity/>



■被害者をだます手口

| だます手口 | 誘導するキーワードなど |
|---------|-----------------------------|
| 混乱させる | 会社を首になる、交通事故に遭った、捕まりたくなかったら |
| 利得を得る話 | 必ずもうかる、倍の値で買い取る、損しません、還付がある |
| 希少性、期限 | 今日だけ、あなたにだけ、抽選に当選した、残りわずか |
| 投資の勧誘 | クリーンエネルギー、外貨、未公開株 |
| 電話偽装 | 喉の調子が悪い、電話番号が変わった |
| お金の授受方法 | 電子マネー購入、ATM、キャッシュカード・通帳を預かる |
| 身分詐称 | 警察官、裁判所職員、司法書士、銀行員、会社の上司 |

ることを嫌い、自ら電話を切ります。そのため、迷惑電話があったことに気付かないうちに撃退できます。また、電話を受けた場合でも、録音機能により詐欺師との会話を記録します。録音された会話がその後の捜査に役立ちます。なお、防犯電話機の設置を希望される場合は、市内各地区の商工会では、機器の設置や販売をしている商店を紹介していますのでご相談ください。

お金の話が出たらすぐに相談
詐欺の手口は日々巧妙になっていきます。お金の話をされたときは、一度電話を切るなどして話を止め、冷静になる時間を持つことが必要です。県内の詐欺被害者の約9割が「自分は被害に遭わないう自信があった」と答えています。自分だけは大丈夫、詐欺の話は他人事だなどと考えずに、いつ自分がターゲット

ゲットになるか分からないという意識を持つことが重要です。また、自分の判断だけでなく、身近にいる誰かに相談するということが大切です。詐欺師からお金を取り戻すことは困難です。少しでも怪しいと感じたら、家族や相談できる近所の人に話してみることで詐欺に気付く場合もあります。日頃から近所で声を掛け合い、お互いに注意することが被害防止につながります。

手口を知り罠に備える 困った時はすぐ相談
孫子の兵法には「敵を知り、己を知れば百戦危うからず」の一節があります。敵情を知ることが、客観的に自分を知ることが大切であると説いています。だましの手口を知っていれば、あらかじめ対策することができ、心の準備もしておけます。自分の性格をよく知っておくことも大切です。例えば、頼まれごとや困っている人を放っておけない性分の人は、怪しいと感じたら遠慮せずに断る勇気を持つことが必要です。そして、一番大切なことは、困った時やおかしいと感じた時に、自分1人で判断しないで相談すること。周りの人からの冷静な意見を聞くことで、だまされていくことに気付いたり、解決できたりすることがあります。

一人一人の意識を基礎に、お互いが声を掛け合うことで、安心して暮らせる地域を守っていくことができます。

特殊詐欺から身を守る

親族を装うなどして電話を掛け、いろいろな理由を挙げて至急現金が必要であると信じ込ませることで、動転した被害者から現金などをだまし取る特殊詐欺。横行する特殊詐欺への対応方法を佐沼警察署生活安全課菅原課長に聞きました。



佐沼警察署生活安全課 菅原 堅一課長

知らずにだまされる 巧妙な手口

特殊詐欺は、横行し始めてから20年近く経過した今でも被害が無くならず、社会情勢の変化に応じてだますための方法も多様化しています。詐欺師たちは、巧妙な手口で被害者を慌てさせ、正常な判断をさせないようにして詐欺の罠に誘い込みます。市内での事件の一つに、架空請求詐欺があります。犯人は、サイト利用料の名目で、被害者に電子マネーでの支払いを要求しました。「お店で購入する時はこうしてください」次はあの

店でいくら購入してください」など、一度の購入額に上限がある電子マネーを、複数の店でスムーズに購入できるよう電話で指示しました。被害者は、その指示を親切で丁寧な説明だと錯覚してしまい、自分がだまされていることに気が付かなかったそうです。また、オレオレ詐欺の事件では、「お金が急に必要になった。すぐに返すからお金を貸してほしい」という犯人からの電話。離れて暮らす家族の頼み事だと信じた高齢者が、困っている家族を何とか助けたいと思い、慌ててお金を用意しようとした事件もあります。

防犯電話機について
防犯電話機は、警告音や自動録音機能付きの電話機のことです。着信音が鳴る前に電話をかけてきた相手に、「この電話は、迷惑電話防止のために、録音されます」などのメッセージを伝えます。詐欺師たちは自分の音声



伊藤 桂子さん(80)
迫町大網南

日頃から市の講話に参加するなど、新しい知識を身につけるようにしています。また、詐欺被害の抑止には、周りからのちょっとした一言が大切です。近所で声を掛けあって、被害ゼロを続けたいですね。

鈴木 ひろみ金融課長
みやぎ登米農協なかだ支店

昨年、「孫からお金を貸してほしいと言われた」と話す70歳代の男性が来店。言動を不審に思い、声掛けから特殊詐欺被害の発覚につながりました。これからも防犯意識を持ち、地域の安全に貢献します。



詐欺被害の防止に尽力 Interview